

実験動物の技術と応用 実践編 増刷（第七刷）にあたっての修正点

修正箇所	修正前（第六刷まで）	修正後（第七刷）
p. 8 表 1-3 農林水産省通知文書名	農林水産省の所管する <u>実施機関</u> における動物実験等の実施に関する基本指針	農林水産省の所管する <u>研究機関</u> 等における動物実験等の実施に関する基本指針
p. 96 右欄、「EOG と安全衛生」の欄、1～2 行目	エチレンオキシド(EO)は「特定化学物質等障害予防規則(特化則)」において、～	エチレンオキシド(EO)は「特定化学物質障害予防規則(特化則)」において、～
p. 128 「(5)排気処理」の項、3 行目	～アンモニア濃度の基準値は、～敷地境界線上での地表で <u>5ppm</u> とされている。	～アンモニア濃度の基準値は、～敷地境界線上での地表で <u>1～5ppm</u> とされている。
p. 252 「(1)系統情報」、①マウスの項	http://www.informatics.jax.org/external/festing/mouse/STRAINS.shtml	http://www.informatics.jax.org/external/testing/mouse/STRAINS.shtml
p. 252 「(1)系統情報」、②、ラットの項	http://www.informatics.jax.org/external/festing/rat/STRAINS.shtml	http://www.informatics.jax.org/external/testing/rat/STRAINS.shtml
p. 269 右欄、「CD1 分子」の欄、9 行目	～モルモットはヒトと同様 CD1 グループ 1 と 2 の双方を持ち、グループ <u>1</u> しか持たないマウス・ラットに比べ、～	～モルモットはヒトと同様 CD1 グループ 1 と 2 の双方を持ち、グループ <u>2</u> しか持たないマウス・ラットに比べ、～
p. 297 「(6)コクシジウム病」の項、3 行目	肝臓型コクシジウムはアイメリア・スティーダイ (<i>Eimeria stiedai</i>) が～	肝臓型コクシジウムはアイメリア・スティーダイ (<i>Eimeria stiedae</i>) が～
p. 309 右欄、「ケージサイズの目安」の項	米国 ILAR の基準では、ビーグルのような体重 15kg 以下のイヌの場合、1 匹あたりの床面積は 0.74m ² 以上で、 <u>高さは 82cm 以上を推奨している。すなわち、82(W)×90(D)×82(H)cm 以上の大きさのケージが求められる時代になってきたといえよう。</u>	米国 ILAR の基準 <u>(第 8 版)</u> では、ビーグルのような体重 15kg を下回るイヌの場合、1 匹あたりの床面積は 0.74m ² 以上で、 <u>高さはイヌが肢を床に置いて楽に直立できるよう、十分な高さが必要ならぬとされている。</u>
p. 325 「7 飼育管理、1. ケージおよび床敷」の項、5～7 行目	ILAR のガイドラインでは、1 頭あたり、床面積は体重 4kg 以下が <u>0.27m²</u> 、4kg を超えるものは <u>0.36m²</u> 以上で、高さはそれぞれ <u>61cm</u> と推奨している。	米国 ILAR の基準 <u>(第 8 版)</u> では、1 頭あたり、床面積は体重 4kg 以下が <u>0.28m²</u> 、4kg を超えるものは <u>0.37m²</u> 以上で、高さはそれぞれ <u>60.8cm</u> と推奨している。
p. 350 右欄、「B ウイルス」の欄、1 行目	B ウイルスは、 <u>ヘルペス A 群</u> に属する DNA ウイルスで、～	B ウイルスは、 <u>アルファヘルペス亜科</u> に属する DNA ウイルスで、～

p. 359 「(4)ジュウシマツ、キンカチョウ」の項 下から3～1行目	～なお、ジュウシマツ、キンカチョウともに寿命は約5年であり、 <u>性成熟は3か月、1回の産卵数は5～6個、抱卵日数は約16日、巣立ちは約21日を要する。</u>	～なお、ジュウシマツ、キンカチョウともに寿命は約5年である。
p. 367 「5 繁殖、(3)ジュウシマツ、キンカチョウ」の項、3～4行目	1回の産卵数は5～6個であり、抱卵日数は約16日、巣立ちは孵化後18日である。～	1産卵期（一腹）の産卵数は5～6個であり、抱卵日数は約16日、巣立ちは孵化後約3週間である。～

加えて、p.298、表 5-4 を下記の通り修正します。
(修正前)

5-4 世界のケージサイズ

96USA		
体重(kg)	面積(cm ²)	高さ(cm)
<2.0	1350	35.6
2.0-4.0	2700	35.6
4.0-5.4	3600	35.6
>5.4	4500	35.6
EC(EU)		
体重(kg) (単飼)	面積(cm ²)	高さ(cm)
1	1400	30
2	2000	30
3	2500	35
4	3000	40
5	3600	40

(修正後)

5-4 世界のケージサイズ

ILAR (USA) の基準 (第8版)		
体重 (kg)	面積 (m ²)	高さ (cm)
<2	0.14	40.5
2<4	0.28	40.5
4<5.4	0.37	40.5
>5.4	≥0.46	40.5
EC (EU) の基準 (2010)		
体重 (kg)	面積 (cm ²)	高さ (cm)
<3	3500	45
3～5	4200	45
>5	5400	60

実験動物の技術と応用 実践編（第七刷）の正誤表

下記の通り訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
p. 104 「(3)搬入」の項、上から8～10行目	「～2%過酢酸の噴霧後は、滅菌完了まで30分程度の放置が必要であるが、 <u>エキスポア</u> では3分程度で滅菌できる。」	「～2%過酢酸の噴霧後は、滅菌完了まで30分程度の放置が必要である。」
p. 155 「(5)縫合針」の項、上から1行目	「縫合針には外科用角針（弱 <u>湾</u> 型、強 <u>湾</u> 型）、～」	「縫合針には外科用角針（弱 <u>弯</u> 型、強 <u>弯</u> 型）、～」
p. 283 「6 病気」の項、上から4行目	「とくに3～5週齢時に淡黄色水様性の下病と食欲減退などを主徴とするウエットテイルの～」	「とくに3～5週齢時に淡黄色水様性の下痢と食欲減退などを主徴とするウエットテイルの～」
p. 313 表 6-5 レプトスピラのイヌの症状欄	「～、口内 <u>腫瘍</u> 」	「～、口内 <u>潰瘍</u> 」
p. 334 「1 特徴」の「1.動物分類学上の位置と起源」の項、上から2行目	「～、インドイノシシ (<i>S. s. cristaus</i>) の3種がある。～」	「～、インドイノシシ (<i>S. s. cristatus</i>) の3種がある。～」
p. 335 右欄、「表 8-2 NIBS系ミニブタの血液検査値」、雄、9か月齢のMCVの値	「 <u>557</u> ±4」	「 <u>55</u> ±4」
p. 341 「表 8-5 ブタの主要な感染症」の豚赤痢の病原体	「 <i>Serpuline</i> <i>hyodysenteriae</i> 」	「 <i>Brachyspira</i> <i>hyodysenteriae</i> 」
p. 341 「表 8-5 ブタの主要な感染症」のグレーサーの病原体	「 <i>Hemophilus parasuis</i> 」	「 <i>Haemophilus parasuis</i> 」
p. 360 「(5)内臓系」の項、下から4行目	「脾臓は十二指腸系蹄に挟まれたかたちで～」	「脾臓は十二指腸係蹄に挟まれたかたちで～」
p. 371 「(3)疾病と対策」の項、10行目	「胞嚢体が白 <u>班</u> 状にみえる。」	「胞嚢体が白 <u>斑</u> 状にみえる。」